


神奈川県
知っていますか?
感染防止対策取組書
神奈川県は、お店や施設が行っている「感染防止対策」を見える化するシステムを導入いたしました。




ヨコハマ **想** vol.74



モデル
はなさん
Hana

1971年、横浜生まれ。2歳からインターナショナルスクールに通い、17歳からモデルを開始。上智大学卒業。ファッション誌をはじめ、テレビ、ラジオ、ナレーション、エッセイの執筆など幅広く活躍。著書に『hana's style book』『ちいさいぶつぞう おおきいぶつぞう』『はな、茶の湯に出会う』など。雑誌『なごみ』、「天然生活web」など連載多数。
インスタグラム @hanalovestaco

一日一番…力士がよく使う言葉で「その日、目の前の一番に集中して取り組む」という意味。

17歳でデビューし、今も爽やかな笑顔でグラビアを飾るモデルのはなさん。笑顔の秘訣は、日々好きなものに囲まれて暮らしているから?知的でお洒落な、はなさんの登場です。

本人が一人でヨーロッパに来るのが珍しい時代で、寂しい思いもしましたが、「ちゃんと話せるようになるまでは家に電話しない」と決めて頑張りました。

高校在学中にモデルデビュー

モデルを始めたのは高校2年の時です。夏休みが3カ月あり、家でゴロゴロしている姿を見かねた母が、モデルをしていた、いここに相談して、モデル事務所に行ったのがきっかけです。その週に、『mc Sister』というファッション雑誌の編集部に来てもらい、専属が即決定。続いてオーディションを受けたらCMが決まって…と、私も驚くほど順調なスタートでした。

初めて経験するモデルの仕事はとて楽しかったです。日本語だけで同年代の子と会話をするのも新鮮でしたし、地方から撮影に来る子と一緒にホテルに泊まったりして、週末は部活のように過ごしました。

学校はアルバイト禁止でしたが、母は「遅刻も休みもせず、成績も落とさなければお咎めはないのでは」と強気。モデルは週末と長期休暇だけにして、学業と両立させ、先生にも応援してもらえました。生徒会の役にもついていましたし、金曜日の夜は渋谷に遊びに行っていましたし、アクティブな毎日を送っていましたね。

周囲の人に恵まれて

今でこそ話す仕事をしてしていますが、もともとは人前で話すのが苦手。モデルをするうちに少しずつ、自分を表現したり、意見が言えるようになりました。20歳でMTVのVJを務めた時は大変でしたが、スタッフの方々にたくさん助けていただいて。話す仕事を続けていきたいと思うようになりました。

最初にエッセイの話をいただいた時も、「日本語の文章なんて、漢字もあまり書けないし、どうしよう」と思いましたが、文章

が足りないところはイラストで見せるなど、自分なりに工夫してやりました。下手だったと思いますが、面白いと言ってもらえて。私を盛り立ててくれる人に恵まれたから、さまざまな仕事が続けられています。

自分の「好き」に忠実に

好きなものは、流行に関係なく好きです。仏像は大学の頃から好きでしたし、お菓子づくりは小学生からやっていて、今はWEBでお菓子のレシピを連載しています。自分が食べたいものしか作りませんが、それって大事なことですよ(笑)。

野球も大好きで、子どもの頃から巨人ファンです。忙しくてブランクはありましたが、数年前から熱が復活。練習試合から全て、録画もして見えています。旅も好きですし、相撲やパンダも好き。好きなものがたくさんあると、毎日、楽しく過ごせておすすめです!

今も週に一度は横浜へ

横浜には30代半ばまで住んでいました。都内に住んでいる今も、FMヨコハマの放送で毎週来ています。横浜の中では、自分が生まれ育った元町や中華街が一番落ち着きますし、好きな場所です。子どもの時から遊んでいた場所なので、いつ行っても素の自分に戻れるんです。実家で犬を飼っていたので、外国人墓地から坂を下りて山下公園の方までよく散歩に行きましたね。

横浜に帰ってきたと実感できるのは、多摩川を越えた時。学生時代、電車で仕事や大学に東京に行く時は、ここがオン・オフの切り替え場所でした。東京に対して構える気持ちはどこかにあったのか、川を越えると、自然とほっとできるんです。

FMヨコハマ
「Lovely Day♡~hana金~」
毎週金曜9時~12時 生放送

中華街が遊び場

元町の病院で生まれ、6歳まで中華街にある祖母の家で暮らしました。母方の祖父が中華街で華正楼というお店を始めて、お店の裏にあった家に、うちの家族も一緒に住んでいました。弟が一人いて、私はしっかり者のお姉ちゃんでした。その後は元町に引っ越しました。

今はテーマパークのような雰囲気ですが、当時の中華街は、そこに住んでいる人向けのお店がたくさんありました。八百屋は今もありませんが、ブタまんの江戸清は肉屋でしたし、その隣には本屋がありました。関帝廟通りにあった小さな公園には、毎週日曜日、紙芝居屋さんが来ていました。日本の文化も根付いていて、私は空手を5年間習っていました。

私にとっては中華街全体が遊び場。路地裏がつながっていて、追いかけてこやかくれんぼをすると、いつの間にかお店の中に出して

まう。大人たちもそれを笑って許してくれる、人情味あふれる街でした。

英語と仏語をマスター

母の考えで、2歳から山手のインターナショナルスクールに通いました。英語ができれば、将来仕事をするときには困らないと考えてのことです。中学になると日本語をしゃべっているところを先生に見つかるとう居残り、それが続くと停学、そして退学になるという厳しいものでした。

英語以外の語学を身につけたほうがいいと、母の勧めで、15歳の夏休みにはフランスに1カ月の短期留学をしました。フランス語がまだおぼつかない娘をよく外国に一人で行かせてくれたと感謝しています。高校生のときにはスイスとフランスにホームステイしました。このとき友達とヒッチハイクにもトライ。今、考えると無鉄砲な冒険でしたが…。日

7月12日(日) 東戸塚で相談会 弁護士に聞ける! 相続や借地権、立ち退き、トラブルを防ぐには?

- 日程 7月12日(日)
- 時間 ① 9:30~10:30
② 10:45~11:45
③ 12:00~13:00
- 定員 各回2組(要予約・参加無料)
- 講師 北田・島崎・武藤法律事務所
弁護士・武藤一久さん
- 会場 SSビル3F(受付5階)
東戸塚駅徒歩2分

WEBでのお申込み



0120-307-341 10:00~17:00

(火水定休、メール・WEBのみ24時間無休での受付)

応募メール hello@sekisuihouse.co.jp

※お名前・ご住所・電話番号・ご希望時間・ご参加人数を明記の上、申し込みを。

※応募者の個人情報は、セミナー運営と今後の案内に利用します。



人口の4人に1人が65歳以上の高齢化社会を迎えた日本。どの家庭にも必ずやってくるのが相続の問題。日本では相続の多くを占めるのが不動産だそう。その中でも借地権に関わる相談も増えています。借地権付き土地は通常の不動産とは異なり、その土地にある建物の建替えには地主さんの了解が必要。逆に地主さん側は土地の利用や処分制限があり、トラブルに発展することも。今は人間関係で土地の貸し借りが成立していたとしても、時代や世代が変わると借地は地主・借地人双方にとって悩み深い不動産となります。

また、空室が多くなった老朽貸家の悩みはな

いでしょうか。老朽貸家はいずれかの時点で「売却」「解体」「建替」が必要になります。しかし、立ち退きが必要であったり、複数人の共有名義で不動産を所有している場合、手続きが煩雑になる為、老朽貸家の整理は次世代に先送りにされがち。

積水ハウスでは、北田・島崎・武藤法律事務所の武藤一久さんを招き、個別相談会を開催。「空き家になっている不動産をどうしたら」「共有名義の不動産を処分するには」「借地権上の建物を建て替えた」などの悩みを経験豊富な弁護士に相談できます。少しでも気になること・不安なことがある人は、この機会に参加してみてください。